

Inajin 25

vol. 25
2008 Spring

埼玉県立伊奈学園総合高等学校

同窓会会報誌

INAGAKU STYLE file No.1

1988年度卒業 フリーアナウンサー・ジャズシンガー
河田博美さん

人生そう簡単に
あがりはない

過ごした時の流れや窓の外に見た風景が違ってても
かつて同じ場所に集った先輩たちの経験は
未来への扉を開くヒントがちりばめられたメッセージ
新しく同窓会の仲間となる21期生の皆さんへ
門出を祝して3つのメッセージを送ります

Photo by KAZUTO SAKAIYA

同窓会会長挨拶

「想い出」にならないで……

伊奈学園総合高校 同窓会会長
金子桂「3期61・人文」

きょう、卒業の日をさまざまな思いで迎えた
ことでしょう。しかし、正門をあとにした伊奈
学園は、記憶を封印する「想い出」の地にはな
りません。同窓生の多くが、いまの生活につな
がる「自我の原点」と思っているからです。
高校時代の漠然とした将来の希望は、大学
や就職の場で少しずつ肉付けされていきます。
社会人になって、海外の地をたずねては世界に
生きる日本の姿を知り、過去の歴史や教訓に
学んでは日本人の未来の自覚を磨いていくは
ずです。さまざまな偶然と必然とが出合っ
て、あなたの経験値を高めていく。そう簡単にこの
ゲームのセットはできません。
同窓の仲間は、伊奈学園という共通体験か
らつながる人生の友です。世界や日本のあち
こちで出会い、互いの感性を磨いていくこと
でしょう。足りない知識や経験を人から吸収し、
自己資本比率を高めてください。
これからよろしく、そして卒業おめでとう。

Information 同窓会より

01 会報誌「Inajin」送付について

卒業生の皆さん、「卒業おめでとう」といいます。皆さんは本日より、伊奈学園同窓会の会員になります。会員の方のみなさんには同窓会から会報誌「Inajin」が送付されます。各界で活躍されているOB・OGの情報、母校・伊奈学園のトピックス、同窓会の活動内容などの情報をお届けします。同窓会では、この会報誌を、卒業生と母校をつなぐコミュニケーションツールとして充実させてまいります。ご期待ください。

02 伊奈学園同窓会ウェブサイトへアクセス

伊奈学園同窓会ではインターネット上にウェブサイトを開発しています。同窓会からの連絡や掲示板、住所等の登録/変更、卒業生のホームページへのリンクなどがあります。同窓会への相談、問い合わせのメールもこちらから投稿できます。

web <http://inagakuen.on.arena.ne.jp/>
e-mail ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp

03 HR代表理事さんへお願い

HR代表理事(以下HR理事)はHRを代表します。毎年開かれる理事会に出席し、同窓会の今後の活動方針を決めるとともに、同窓会で行われる各種活動のスタッフとして参加してください。

HR理事にはクラスメイトの名簿が公開されます。名簿はHR理事にしか公開されませんので、転居などの際には連絡先が分かるよう、必ず同窓会までお知らせください。

HR理事を他の方に替わる場合は、理事会での承認が必要です。

04 個人情報の取り扱いについて

同窓会では、会員のみなさんの連絡先(住所、電話番号、電子メールアドレスなどの情報)を名簿にまとめて保管しています。これら情報は個人情報保護の観点から一般には公開されず、同窓会の活動にのみ利用されます。

〈名簿情報の利用例〉

- 会報誌の送付
- 登録された住所に「Inajin」を送付します。
- クラス会の呼びかけ
- HR理事に対してクラスメイトの連絡先を公開します。
- 電子メールによる連絡
- クラス会開催の連絡などを、電子メールを用いて同窓会から代行します。
- 同窓生への連絡の仲介
- 郵便物の転送などを行います。

名簿に登録される情報は「非公開」とすることができません。同窓会ウェブサイトの「住所等の登録/変更」(<http://inagakuen.on.arena.ne.jp/formone/formmail.html>)から登録してください。非公開の場合個人情報はHR理事に対しても公開されません。詳しくは同窓会ウェブサイトと同ページにある「登録情報の扱いについて」をご覧ください。

05 住所変更などはお早めにお知らせください

引越しや結婚などで連絡先やお名前が変わった場合は、お早めに同窓会までお知らせください。また、電子メールアドレスの変更の際もお知らせください(同窓会からの連絡は電子メールを利用します)。

06 役員交代のお知らせ

08年4月から新しい同窓会役員を選出する予定です。役員候補は次の通り。

会長：原 雅之(1期4A・美術)
副会長：鈴木 宗一(5期5E・体育)
副会長：乾 理(7期6A・理数)

新執行部は「実行する同窓会」を目指し、会員相互の交流、会報誌とウェブサイトによる情報発信、同窓会組織の立て直しを積極的に行っていきます。

STAFF

Editor in Chief : 原 雅之(1期4A・美術)
Editor : 岩片 翼(7期6A・人文)
Writer : 石田陽子(2期1G・理数)
Art Director : 椎原由美子(1期5B・美術)
Title logotype design : 町田えり子(7期5C・美術)

発行/伊奈学園同窓会
編集/会報誌編集委員会

© Inagakuen Dousoukai 2008 掲載されている記事・写真等一切の権利は伊奈学園同窓会または原作者に帰属します

お問い合わせ

Mail ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp
Web <http://www.inagakuen.on.arena.ne.jp/>

Inajin
vol.25



1986年度卒業
奥平季之さん

おくだいら としゆき

1期・理数/ラグビー部。牛専門の獣医師として、那須塩原エリアで大小30カ所の牧場を駆け回る毎日。乳牛の診療のほか、年間1500頭の人工授精を行う。車で移動は1日200kmになることも。2児の父。

高校3年間は、いま振り返ってみても充実した時だったと思います。漠然と「新しいことがしたい」という気持ちから新設校に入学したのですが、皆がそうだったと思うのです。同級生には海外留学した友人も多く、もともと海外志向だった自分も「絶対に海外へ行く」と決意を固くしました。ただ、仲間と一緒に卒業することも大切だと感じたので、タイミングはその後だと考えていました。大学受験で浪人が決まったとき、海外を旅した後で進学しようと思ったのですが、父親に反対されました。何の目的もなく海外でフラフラするだけでは意義はないと。自分も「今こそチャンス」と気が急いでいたものの、言われたことも「理ある」と納得しました。その時に、進め

やりたいことを成すべきという方法は一つじゃない

28歳

25歳

18歳



全ての原点になった高3夏のヒツタイク

夢は急がなくてもいい
それでも情熱を
置き去りにはしない



パラグアイでは野宿をしながらカヌーで川下りをしたり、キックボクシングなどにも挑戦

34歳

帰国後、酪農協同組合の勤務医を経て独立開業

青年海外協力隊でパラグアイへ、ブライベートも満喫しつつ2年間を過ごす

獣医師となり県職員として食肉検査所に勤務

今だからできる
貴重な体験を
見逃さない



活動拠点の小学校でリーダー格の少女と一緒に

20歳

19歳

18歳

「貧困」の現実を目の当たりにして衝撃を受ける

平均2〜3時間の睡眠が功を奏し第二志望校に合格

浪人して新聞奨学生になり

2004年度卒業
大瀬弘太さん
おおせ こうた

19期・人文/ラグビー部。立命館アジア太平洋大学APM学部(経営・経済など)在学中。学生NGO「PRENGO」に属し、支援活動で年2回タイを訪れる。広報部として後継の中・高生に情報発信も。



Photo by KAZUTO SAKAIYA

かわた ひろみ

3期生・体育/バレーボール部。展示会のコンパニオンを経て、企業セミナーやテーマパークのMC、結婚式の司会など幅広く活躍。赤坂のジャズバーで月1回の単独ライブがライフワーク。
http://www.tokyo-music.com/minami/

35歳

周囲の期待を感じて挑戦したジャズに目覚める

32歳

ヴォーカルスクールの発表会でライフステージの楽しさにハマる

27歳

ボイストレーニングのため知人に紹介されヴォーカルレッスンに

21歳

寿退社を期にカルチャースクールのアナウンス講座を受講

18歳

伊奈学園卒業

多くを望まないけれど
現実からは逃げない

こんなふうには言ってしまうと驚かれるでしょうが、私は「絶対にこうしたい」「将来こんなことをしよう」という強い意志で歩んできた訳ではありません。進学も就職もすべてそうで、伊奈学園に入学したのも推薦で入る公立高校があると中学の先生に薦められたからです。

そんな私でも学系が選べるというので、無理を承知で「英語がいいかな」なんて思ったりしましたが、成績が一番良かった体育で推薦を受けて合格しました。大学受験でも推薦で入れる女子短大を探し、就職も「普通のOLになれたらいい」くらいの気持ちだったので、学校卒のあった某証券会社に入社しました。短大では勉強もそこそこ毎日バイト三昧だったので、それなりに名の知れた企業に就職できたことは、唯一、両親への恩返しになったと思います。

何の苦勞も知らないように思われそうですが、短大では一夜漬けでテスト

トを乗り切って、それなりの成績をキープしていましたが、就職直後にはバブル崩壊も経験しています。新入社員で右も左も分からないままにクレーム処理の日々も送りました。それでも高校バレー部の超スバルタに比べれば、それ以上に辛いことはなく、途中でやめなかった私は「その気になればできないことはない」と思えるようになりました。

その先にある達成感を求め
まだまだ今でも成長中

今の仕事を始めたのは、カルチャーセンターのアナウンス講座がきっかけでした。何か勉強してみようという気になって、パンフレットから何気なく選んだのです。わずか3か月の授業でしたが「いけるかも」と思ったら後は実践あるのみ。仕事情報誌で事務所を探し、数え切れないほどオーディションを受け、経験を積むうちに仕事ももらえるようになりました。何とか軌道にのつたのは20代後半くらい。さらに仕事を長く続けるため、発声を学ぼうとヴォーカルレッスンを始めたの



2期生の「黄金時代」に出場したインターハイで



テンポのよいトークに引き込まれるのは職業柄?

ですが、まさか自分がステージで歌うことになるなんて。向いている、向いていない、というのは自分では分からないものです。努力が足りない時があっても、直面する現実に向かっていくことで新しい何かが見えてくるのだと思います。私にはまだ気づいていない新境地があるかもしれませぬ。今は歌うという表現の楽しさを通して、仕事にもいつそう磨きをかけていきたいと思っています。

受け入れることで
開けていく未来もある